

冬期避難所展開・ 宿泊演習2026

日にち

令和8年1月31日（土）～
令和8年2月1日（日）

会場

岩美町立東コミュニティセンター
（岩美町陸上33）

参加者

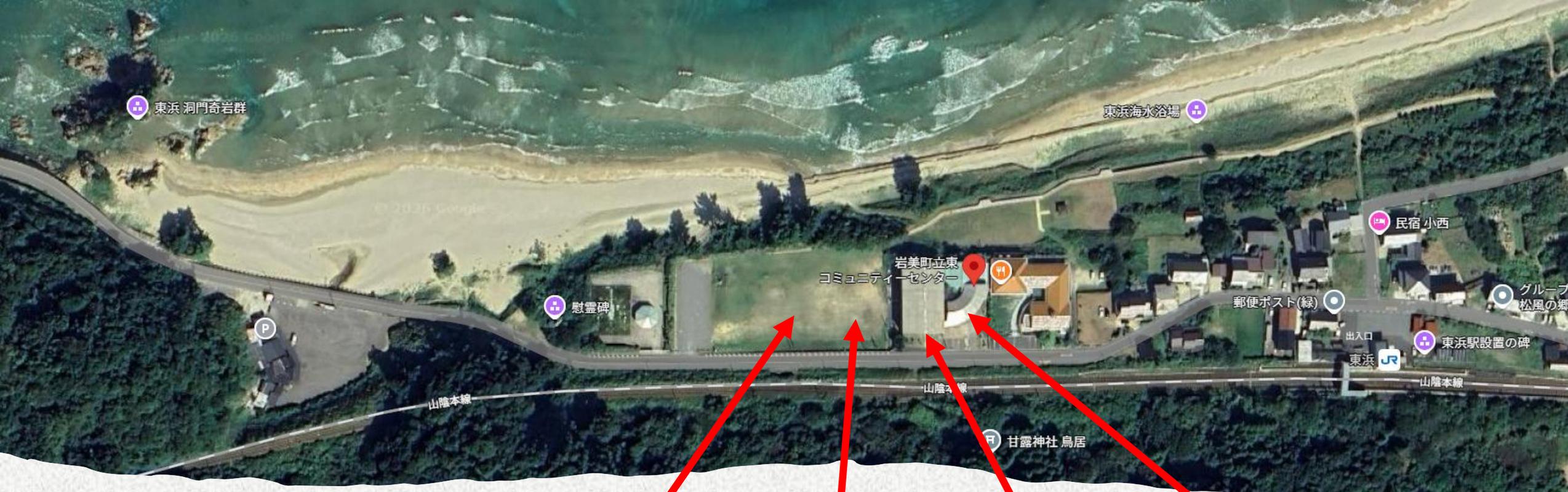
外部団体：12名
赤十字関係：17名



演習の目的

- 1 令和6年能登半島地震において日赤救護員には厳冬地域での自給自足による幕営が求められ被災者の死因としても「低体温症・凍死」が30名以上（全体の1割強）を占めたことから、冬期における自活能力を強化すること
- 2 近年需要が増大する防災事業において、防災教育事業指導者等の赤十字関係者が過酷な避難所を実地体験することにより、防災セミナー等によりその体験を地域に還元すること





会場図

救護所
(グラウンド)

車中泊
(グラウンド)

避難所
(体育館)

研修・講義
(コミュニティセンター)

研修・講義
(コミュニケーション)



研修では低体温症や凍傷、栄養管理について、鳥取赤十字病院 山代救急部長からの講義や、災害時の記録と通信について、「ホワイトボードシート」や「特定小電力無線」を使用して実技を実施した。

救護所
(グラウンド)



昨年度新たに鳥取県が配備した避難所環境資機材（トイレカー等）の説明を受けるようす。
日赤トラックの使用にあたっては、昨年度養成したテールゲートリフター特別教育受講者が活躍した。

救護所
(グラウンド)



救護所用のテント2張「エアーテント、ドラッシュテント（フレームー帯式急速展開シェルター）」を展開した。参加者の中には初実施、数年振りの実施となり、経験を積む機会となった。

救護所
(グラウンド)



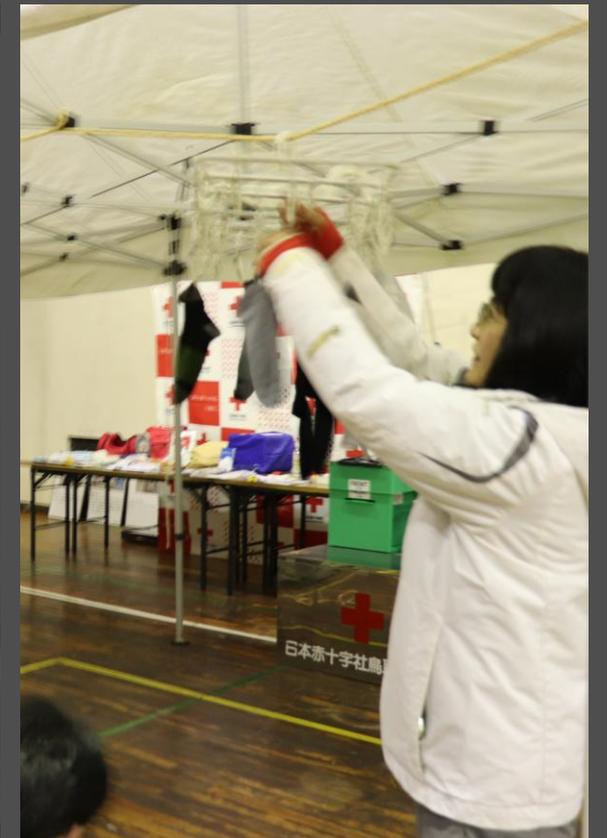
幕営の準備として用意した投光器や発電機、エアーテント用エアコンは有効に機能した。
エアーテントは空調機の有効性、ドラッシュテントは2重構造による気密断熱による保温効果が確認できた。

避難所
(体育館)



各参加団体が段ボールベッドや非常食等それぞれの資機材を持参して、模擬避難所を展開し試験体験を実施した。暖房がない体育館で当日の最低気温は0度を記録した中、各参加者から“想像以上に寒かった、”との感想が聞かれた。

避難所
(体育館)



模擬避難所の展開にあたり、参加者同士で一つのチームとして避難所を運営するため、避難所レイアウトの構築、避難所資機材の展開、洗濯物干し場の改善等、各団体が連携して行動を共にした。

避難所
(体育館)



最新の資機材「衛星通信：スターリンク（ミニ含む）、ワンタッチ防災ベッド（組立不要の折畳み式）」の現地研修をするようす。同資機材の試験にあたり大分県から専門業者に来場いただいた。



【上】前々日からの寒波襲来により本演習的に天候に恵まれ、大雪となった

【右】避難所に設置した簡易足湯に癒される参加者



【上】

エアテントのエア抜き
に列を組む参加者

湿った張の撤収に通常
以上の労力を要した



【下】

演習後の晴天日に使用
した救護所用テントの
乾燥や修理を実施する
参加者

貴重な積雪時、降雪時
における資機材展開の
ノウハウを獲得できた

